

## 技術研究所 年報67号の発刊に際して



常務執行役員 技術研究所長  
福田 孝晴

鹿島技術研究所年報67号の発刊にあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。

本年報は昨年度より、学術的な論文集としての本質的な価値は守りながら、より広い範囲の方々に関心を持っていただくため、研究開発成果の概要を1ページに簡潔、明瞭にまとめるように改訂いたしました。内容につきましては概ね好評をいただいておりますが、さらにご高覧いただける方々のご意見をお聞きしながら改善を進めていきたいと存じます。

また、技術研究所では、鹿島の技術をお客様にわかりやすく体験、実感していただけるように技術研究所のショールーム化も進めておりますので、本年報をお読みいただき、興味を持たれた方はお気軽にお声がけいただき、ご見学やお互いの課題についての意見交換をお願いできれば幸いです。

今回の年報は、特集テーマを「鹿島のR&D-SDGsへの取り組み」といたしました。SDGsは2015年に国連にて採択された「持続可能な開発のための世界共通の目標」ですが、日本政府においても産官学を挙げて達成すべき重要な目標と位置づけられています。弊社も今年度より鹿島グループのSDGsへの取り組みを強化し、事業における7つのマテリアリティ(重要課題)を設定して、事業を通じて社会課題の解決に貢献していく方針を発表いたしました。今後、技術研究所におきましてもSDGsの7つのマテリアリティを重視したR&Dを進めていく所存です。

SDGsを目標として事業を推進することは、PRI(責任投資家原則)により多くの機関投資家から求められているESG投資とも合致する考え方です。日本社会には、「産業における技能労働者の減少」「地震、台風などによる災害の激甚化」「気候変動」「インフラの老朽化」などへの対応といった多くの社会課題が存在します。これらの課題を解決するため、中長期的に目指すべき方向性を7つのマテリアリティとして事業の方向性に組み込み、お客様や社会を初めとする全てのステークホルダーへの貢献を全体最適化していくことを目指して参ります。

一方、最適化の手段としてAI、IoT、ビッグデータ、ロボットなどの先端ICT技術を有効に利用していくことが必要です。建設技術と先端ICT技術を融合させ新しい価値を生むR&Dを推進し、デジタル変革時代に対応したイノベーションを創出して参ります。また、お客様やスタートアップ企業と協働するオープンイノベーションをさらに進め、お客様に寄り添うパートナーとして最適なソリューションやサービスを提供し、スマートな社会の創造を目指して参ります。

鹿島技術研究所は、経営理念の中核である「社業の発展を通じて社会に貢献する」という考えを基本としてSDGsに合致したR&Dを推進し、「100年を創る会社」として幅広い視点から社会の課題、お客様のニーズに応えて参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。